

(特非) オックスファム・ジャパン

アフリカにおけるエネルギー資源開発と環境社会配慮に関する調査提言～モザンビーク北部地域社会へのインパクトと日本の関係を中心に～

イベントの 延べ参加者数	115人
助成活動がメディア に掲載された回数	10回
活動の全体目標 に対する達成度	70%



モザンビーク石炭開発の影響に関するセミナー

◆成果と工夫したポイント

- 成果** 日本の石炭政策の概要が明らかに
なり、モザンビークの資源開発の概
要と課題が明らかになった。報告書「G7が
進めるべき石炭からの脱却」は、日本政府の
関係省庁に届けられ、国内外のメディアでも
取り上げられた。
- 工夫** 開発課題に取り組んできた団体として、エ
ネルギー資源開発の現地社会や貧困・飢餓
問題への影響に着眼。

課 題

低炭素型社会への移行が急務であるが、日本は石炭を主力エネ
ルギーとして位置付けており、アフリカにおけるエネルギー資源
開発も、環境社会配慮上の課題が山積している。

活動内容

1. 調査研究：日本の石炭政策を概
観し、特に福島県を例にエネ
ルギーをめぐる動きを調査。また、
日本政府・企業が関わるモザン
ビークのエネルギー開発事業の
事例を複数特定し、その現状と
課題を明らかにする。
2. 国際会議：調査研究活動の成果
は、国際会議の機運を利用し、日本政府へのアドボカシーを実施。
3. 普及啓発活動：セミナーやメディアワークを中心として、上記活動
の成果を国内外へ向けて発信。



G7 へ向けて発表された報告書

今後の課題

報告書を発表し、モザンビークで資源開発に直面する農民の土
地の権利を守る活動を行う団体への支援を検討。